

《ドッチビー》

・外はナイロン、中はウレタンでできたフライングディスク。だれもが知っているドッチボールをボールの代わりにドッチビーを使用して行う、安全で楽しい競技です。

写真



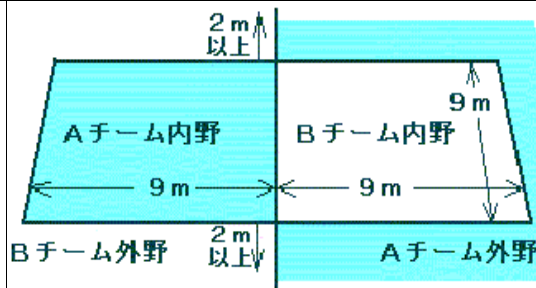
起源

・日本フライングディスク協会が、フライングディスク普及のために考案した。
 ・最初は「スーパーソフトディスク」と呼んでいたが、これでドッチボールをしたところ、人気が大爆発し、「フリスビー」という商品名と「ドッチボール」という競技名が一緒になって「ドッチビー」という言葉が生まれ、独立した商品名と競技名になった。

人数

・団体に応じて自由に設定してよい。(元外野は3人)

場所



・場所は、室内外を問わず、広い空間があればどこでもよい。(当施設では、キャンプサイトの芝生か、体育館での活用が望ましい。)

* 基本的には左図の通りだが、これも人数に応じて自由に設定してかまわない。

進め方

* 全国統一ルールは、現在作成中なので、各地区のドッチボールルールで実施してかまわない。
 ・外野は、内野を倒さないと、自陣の内野には入れない。(元外野も同じ)
 ・キャッチした人が必ず投げる。(内野同士のパスは禁止で、ファールとなる。)
 ・外野同士のパスは、必ずラインを通過しなければならない。

勝敗の決め方

・決着制 最終的に内野に選手がいなくなったチームの負けとなる。
 ・時間制 決められた時間競技を行い、残っている内野人数の多いチームの勝ち。

その他

* ドッチビーには様々な遊び方があるが、中高校生、一般向けの「アルティメット」のルールは次の通り。
 ・各7人でチームを編成、じゃんけん等でオフェンスとディフェンスを決める。
 ・各エンドゾーン内に横1列に並び、ディフェンスチームのスローオフでゲーム開始。
 ・オフェンスチームがディスクを拾い、味方同士でパスをつないで、敵陣エンドゾーン内で味方からのパスをキャッチすると1点。11点先取で休憩、21点先取したチームの勝ち。
 ・ディスクを持っているプレーヤーは、歩行禁止。(ピポットのみ)
 ・パスしたディスクが地面に落ちる、アウトオブバウンズ、パスカット、で攻撃権は相手チームに移り、ディフェンスチームがオフェンスチームとなって、その場で攻撃を開始する。
 ・1点入るごとにコートチェンジを行い、得点したチームがディフェンスとなる。
 ・試合中、得点が入ったときには、何回でも選手交代ができる。
 ・ゲームは審判をおかず、フェアプレー精神に基づき、選手のセルフジャッジで行う。

